

WEEK
week.org

目録での論文が載った
雑誌が廃刊たなくても
あきらめないで

電子ジャーナルに
アクセスできなくても
あきらめないで

ちょっと待って！

人の文献複写 込みの前に

読みたい論文は、Google検索から今
すぐ入手できるかも！

大学のウェブサイトなどで、研究紀要
や、有科学術誌掲載論文(未レイアウト
版を含む)など、さまざまな学術文献の
無料公開が急速にすすんでいます。

ScienceDirect
9,000,000

Wiley
InterScience
3,000,000

118 < 1

杉田茂樹(小樽商科大学附属図書館)

デジタルリポジトリ連合 IRcuresILLプロジェクト

<ircuresill@office.otaru-uc.ac.jp>

IRcuresILL(IRはILLを癒す)

うちの先生の論文、IRでは
無料公開してるのに、なぜ
ILLで申し込まれたら課金す
るの？

IRとILLの
近似性

IRとILLの業務連
携モデルの模索

Berlin6

オープンアクセスを機関
リポジトリ担当者だけにま
かせておいていいのか？

平
20

NACSIS-ILL
データ分析
(平19)

著者館主義ILL
ミニ実証実験

IR、ILL担当者
へのアンケート

平
21

NACSIS-ILL
データ分析
(平18,20)

人気論文著者
へのアンケート

ILLチーム結成
(ブログ、ML)

OAWeek2009

研究者ヒアリング

図書館ヒアリング

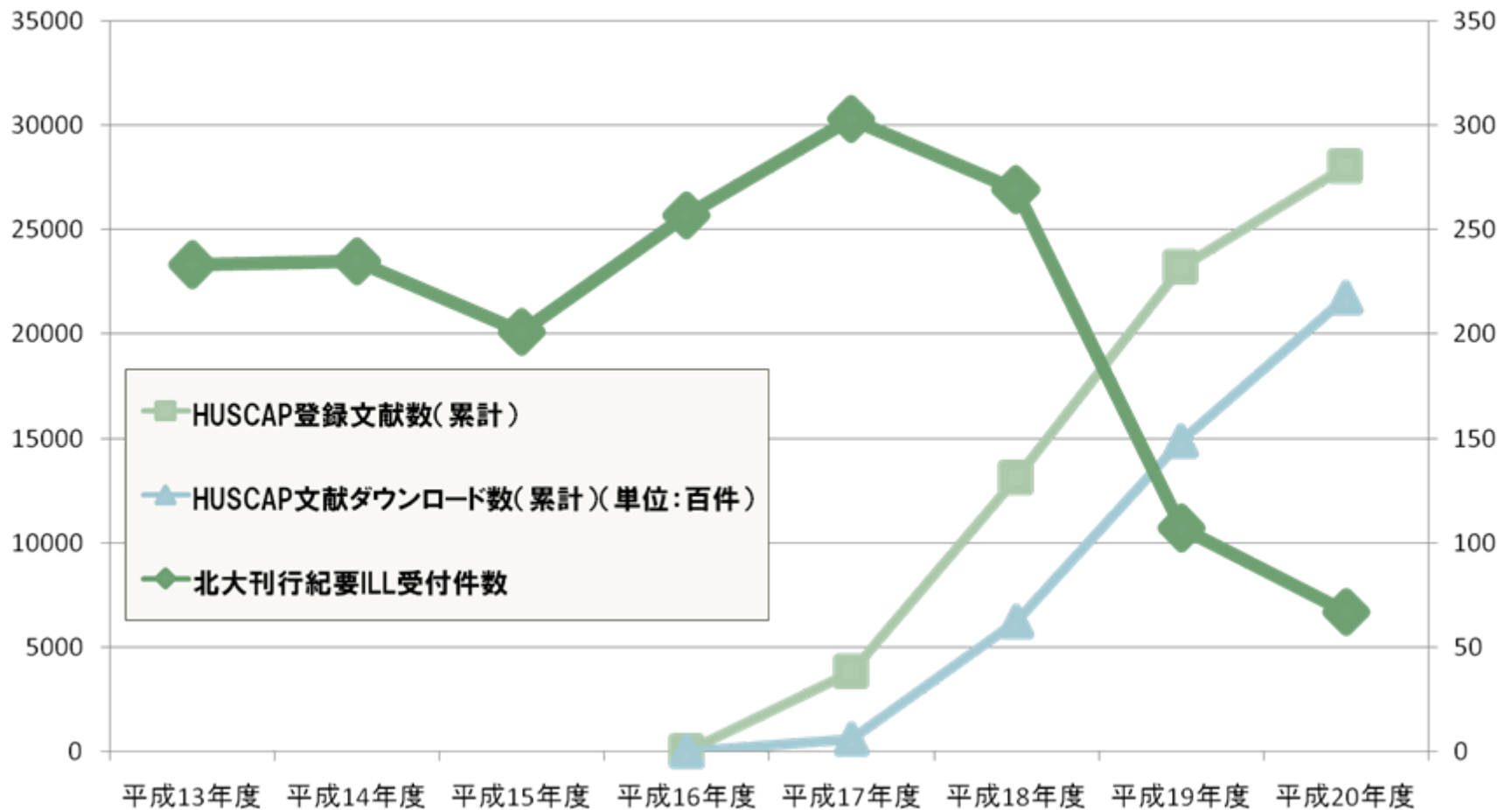
DRF-Med

地区研究集会

DRFIC2009

DRFパネル

北大紀要へのILL依頼の減衰



潜在的な文献需要への予測対処

所蔵館A

依頼館D



コピー・送付



所蔵館B

依頼館E



コピー・送付



所蔵館C

依頼館F



コピー・送付



著者所属館

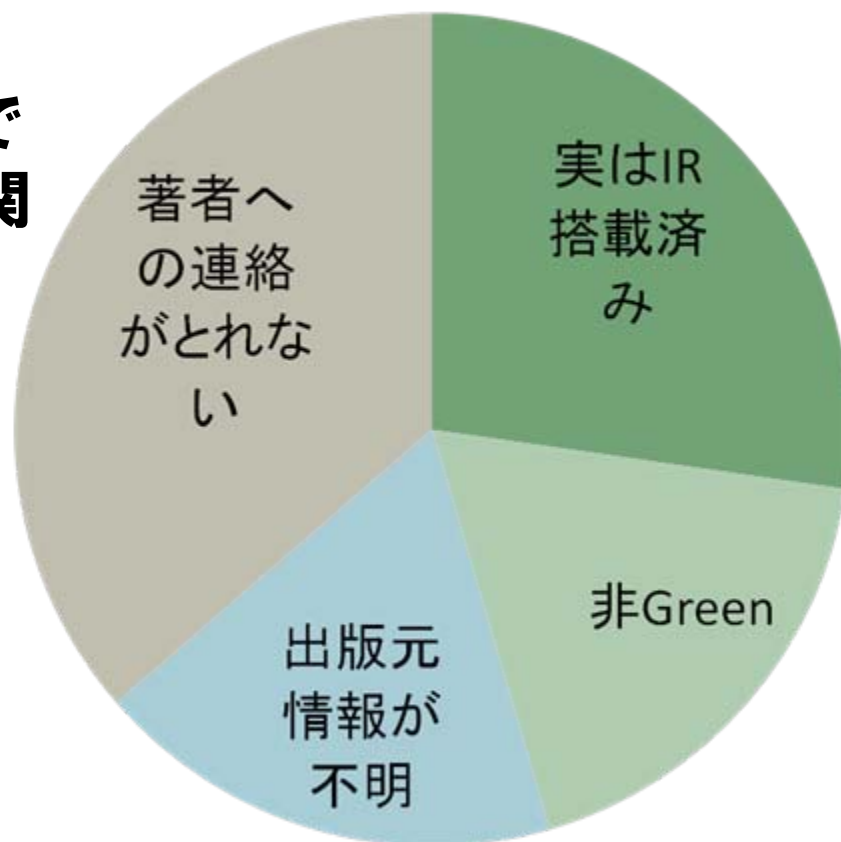


著者所属機関へILLを依頼し、 著者所属機関側でそれをきっかけに IRにも登録してしまえばいいんじゃない？

依頼時には著者所属が不明。では、文献到着時に著者所属機関に連絡をもらうというのは？

ミニ実証実験(11事例)→

なかなかうまくいかない。そもそも、ILLでは、どのような文献がどのように流通しているのか。



NACSIS-ILLレコード中の頻出語



本当に何度もコピー!

	Requested material	ILDD	Q*	R*	O*
1	坂野雄二ほか(1986). 一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み 行動療法研究, 12, 73-82	98	75	33	52
2	尾関友佳子(1993). 大学生用ストレス自己評価尺度の改定:トランスアクションナルな分析に向けて 久留米大学大学院比較文化研究科年報, 1, 95-114	78	67	1	1
3	神村栄一ほか(1995). 対処方略の三次元モデルと新しい尺度(TAC-24)の作成 教育相談研究, 33, 41-47	67	55	27	43
4	鈴木伸一ほか(1997). 新しい心理的ストレス反応尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 行動医学研究, 4, 22-29	65	54	4	4
5	牧野カツコ(1982). 乳幼児をもつ母親の生活と<育児不安> 家庭教育研究所紀要, 3, 34-56	57	50	30	75
6	鈴木安名(2005). 新卒看護師の職業性ストレス簡易調査票の分析 早期離職を防ぐには 病態生理, 39, 31-39	49	42	5	5
7	尾崎フサ子ほか(1988). 看護婦の職務満足質問紙の研究:Stampsらの質問紙の日本での応用 大阪府立看護短期大学紀要, 10, 17-24	47	25	15	53
8	土居内麻理(2006). 終末期がん患者の療養上の意思決定 高知女子大学看護学会誌, 31, 19-26	43	33	6	7
9	詫摩武俊ほか(1988). 愛着理論からみた青年の対人態度:成人版愛着スタイル尺度作成の試み 東京都立大学人文学報, 196, 1-16	42	30	13	172
10	堀毛裕子(1991). 日本語版Health Locus of Control尺度の作成 健康心理学研究, 4, 1-7	41	34	17	42

* 依頼館(Q), 受付館(R), 所蔵館(O)

トップ5は3年間不動

2006			2007			2008		
1	118	坂野ほか	1	98	坂野ほか	1	85	尾関
2	81	尾関	2	78	尾関	2	76	鈴木ほか
3	64	鈴木ほか	3	67	神村ほか	3	69	坂野ほか
4	60	神村ほか	4	65	鈴木ほか	4	58	神村ほか
4	60	牧野	5	57	牧野	5	50	牧野
6	50	中川						

12	39	中川
----	----	----

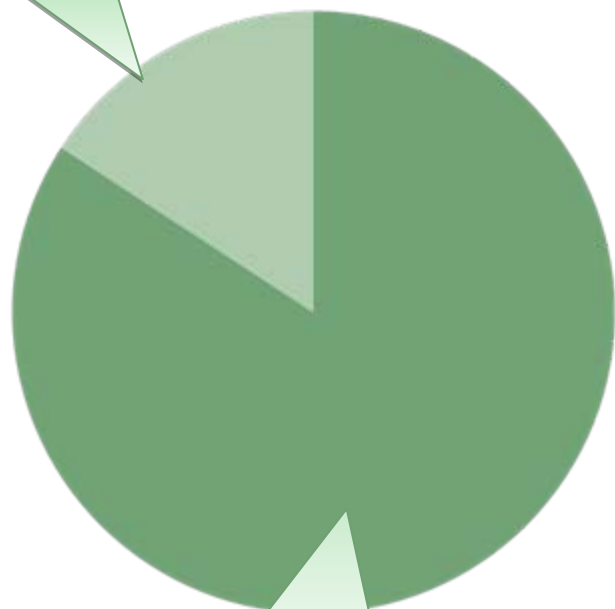
31	29	中川
----	----	----

The diagram illustrates the stability of the top 5 performers over a three-year period. It consists of three main tables for the years 2006, 2007, and 2008, each with 6 rows. Arrows show the movement of performers between these tables. In 2006, the top 5 performers are 坂野ほか (118), 尾関 (81), 鈴木ほか (64), 神村ほか (60), and 牧野 (60). In 2007, they are 坂野ほか (98), 尾関 (78), 神村ほか (67), 鈴木ほか (65), and 牧野 (57). In 2008, they are 尾関 (85), 鈴木ほか (76), 坂野ほか (69), 神村ほか (58), and 牧野 (50). The performer 中川 (50 in 2006, 39 in 2007, 29 in 2008) is shown in a separate box below the 2007 table, indicating they were not in the top 5 for those years.

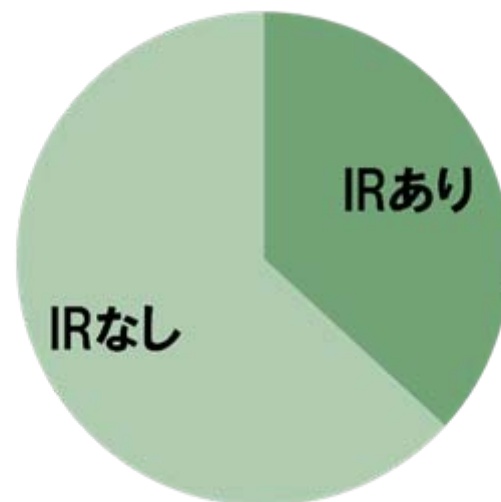
人気論文著者へのアンケート

しかし、

著作権などが心配



公開したい！



誰が彼らの著作論文のオープンアクセス化を支えるのか。

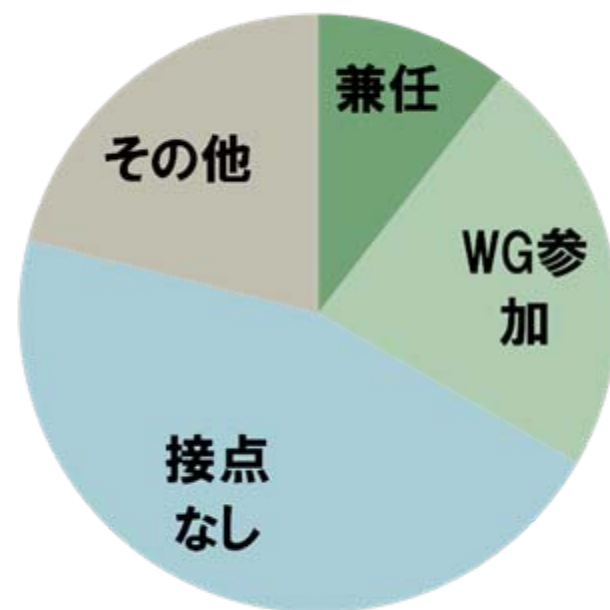
主題リポジトリ？ 共有リポジトリ？
トータルな見地での検討を

IR・ILL担当者向けアンケートから

研究に必要な論文を即座に無料で入手できるオープンアクセス文献や機関リポジトリ(IR)の増加は、研究者にとって大きなメリットがあると思います。ただし、これは図書館側の意見であって、オープンアクセス文献にも関わらず、ILL依頼が来るのが現状です。

それは、「オープンアクセス文献やIRの存在が利用者にあまり知られていない」「利用者の検索の仕方により、オープンアクセス文献が見逃される場合がある」等の理由によるところが大きいと思います。

また、利用者だけでなく図書館内においても(特にILL依頼担当者)、今後、オープンアクセス文献やIRの知識を得て、担当者間の連携をはかり、情報を共有する必要があると思います。



IR担当者とILL担当者

図書室掲示用→

↓到着文献同封用


openaccessweek.org

学外文献複写サービスをご利用のみなさまへ

あなたの研究論文も、 読みたくても 読めない人がいます

機関リポジトリから、新たな読者へ！

学術は、時代と地域を超えた人類の共有資産です。
しかし、世界の大学・研究機関では、雑誌購入予算の縮減などにより、研究に必要な文献の入手がますます困難な状態になってきています。これに対し、あらゆる学術文献に無料でオンラインアクセスできるようにしようという活動（オープンアクセス運動）が盛んです。
あなたの研究論文を読みたくても読めない人がいます。著作を大学のウェブサイト（機関リポジトリ）からオープンアクセス公開しませんか？



<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/oaweek/>


openaccessweek.org

見当たらない論文が読めた
雑誌が見当たらないでも
あきらめないで

電子ジャーナルに
アクセスできなくても
あきらめないで

ちょっと待って！ 学外への文献複写 申し込みの前に

大学ウェブサイト上の
オープンアクセス文献
3,000,000

読みたい論文は、Google検索から今
すぐ入手できるかも！
大学のウェブサイトなどで、研究紀要
や、有料学術誌掲載論文（未レイアウト
版を含む）など、さまざまな学術文献の
無料公開が急速にすすんでいます。

Springer LINK 4,500,000	ScienceDirect 9,000,000	Wiley InterScience 3,000,000
----------------------------	----------------------------	------------------------------------



Google

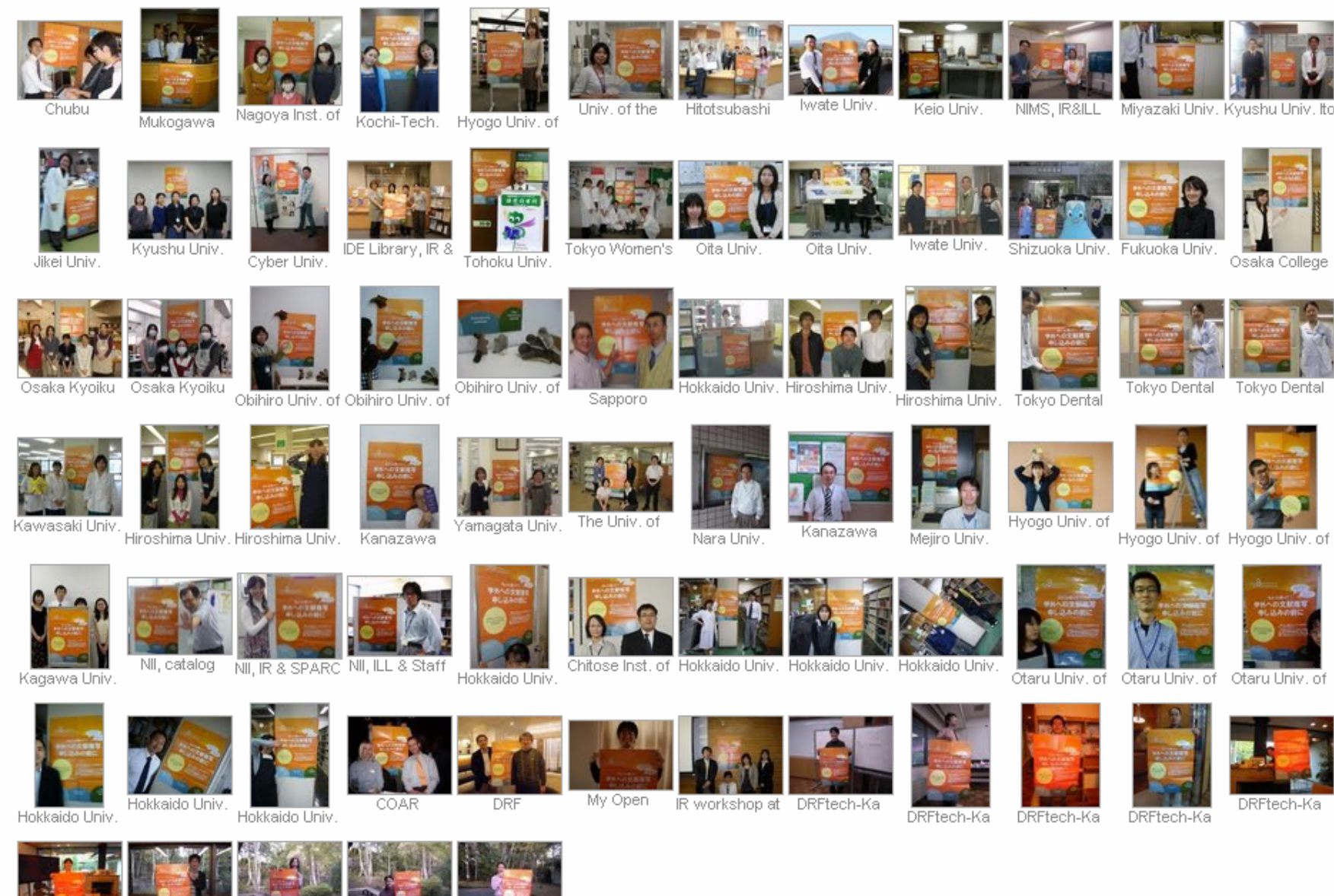


ircuresill > OAweek

スライドショー

共有

ダウンロード



I'llチーム

**IRとILLの両方を担当している
担当者と、IRに興味のあるILL
担当者、ILLに興味のあるIR担
当者からなる、全国の大学図書
館職員(ML、ブログ)**



- **永井一樹(2009). IRのことを考えながら、ILLの仕事をする**
DRF地域ワークショップ(近畿地区), 平成21年9月18日, 大阪
- **阿部潤也(2009). 医学系リポジトリの事例②**
DRF 主題ワークショップ(医学・看護学), 平成21年10月3日, 東京
- **岩澤尚子(2009). ILL担当者から見たIR**
第5回DRFワークショップ, 平成21年11月11日, 横浜
- **鈴木雅子, 阿部潤也, 岩澤尚子, 杉田茂樹(2010). プチパネル: IRとILL**
DRF地域ワークショップ(東北地区), 平成22年1月8日, 仙台

インターネットの普及、さらにオープンアクセスの理念の登場により、研究者は、資料収集から論文執筆・発表に至る研究活動の姿の大きな変化に直面しています。(中略)図書館職員は、学術情報流通にかかわる社会動向、技術動向に常にアンテナを張り、創意をもって大学の学術活動を支えて**いかなければなりません。**

和田健夫(小樽商科大学附属図書館長・副学長)

IRcuresILLプロジェクト報告書「オープンアクセスと図書館」より

ILLとはもっと接近できるはず。いえ、ILLに限らず、図書館活動のあちこちにオープンアクセスとの接点があるはずです。それを見つけ、図書館活動をよりよいものにしていくために、考え、アイデアを試し、これからも一歩ずつ進んでいきましょう！

鈴木雅子(小樽商科大学附属図書館情報普及係長)
IRcuresILLプロジェクト報告書「オープンアクセスと図書館」より

今後の展開

オープンアクセスを機関リポジトリ担当者だけにまかせておいていいのか？

- **DRFによる課題意識の継承**
 - 機関紙による図書館界全体へのアドヴォカシー
 - オープンアクセス週間(10月18～24日)への協賛
- **小樽商科大学ほか：専属司書制度の試行**
 - 全図書館職員で、教員とのマンツーマン体制を構築
 - IR担当者に留まらない、状況認識の共有
 - 効果の検証、ツールキットの作成等による成果共有